

「世界人物図巻」の世界

◎会期／2010年(平成22)2月4日(木)～5月22日(土)

「世界人物図巻」(国立大学法人九州大学附属図書館蔵)は、江戸時代後期に長崎の町絵師城義隣が描いたものです。この資料には、オランダ船と唐船をはじめ、40ヶ国の人物が収められています。各国の人物の横には、日本からみたその国の位置や気候などが記されています。これらは伝聞などをもとに描かれ、そして記されたものですが、江戸時代の図鑑にあたるものでしょう。

今回は12ヶ国の人物を取り上げ、パネルで紹介しています。当時の日本人の目に、外国人がどのように映っていたのか。江戸時代の限られた情報量のなかで、日本人の知的好奇心や感性なども感じ取ってもらえれば幸いです。



展示パネル一覧
①大明人②大清人③朝鮮人④琉球人⑤鞑靼人⑥阿蘭陀人⑦波爾杜尾爾人(ポルトガル人)⑧諸尼利亜人(イギリス人)
⑨伯刺西爾人(ブラジル人)⑩魯西亜人(ロシア人)⑪重費利加人(アフリカ人)⑫意太里亜人(イタリア人)

南蛮の鼓動 ～大分に残るキリシタン文化～

◎会期／2010(平成22)年5月27日(木)～7月3日(土)

フランシスコ・ザビエルの来航にともない、日本にキリスト教がもたらされました。これを受けて大分では、領主の友友氏の援助もあってキリスト教に関係する施設が設置されます。また、大友宗麟は自らも洗礼を受けキリシタン大名としてキリスト教を積極的に保護しました。そして、貿易を通じて多数の南蛮文化がもたらされ、日本文化は大きく飛躍することになります。

大分各地にはキリシタン遺跡も数多くあり、発掘により多くの成果が挙げられています。こうした禁教以前に繁栄したキリスト教文化の実像やキリシタン大名である大友宗麟の事跡を紹介するとともに、豊後府内のキリシタン信仰の姿に迫ります。また、南蛮貿易により栄華した大友領や当時の文化もあわせて紹介していきます。



出品予定資料
①聖フランシスコ・ザヴエルの肖像(複製)(津久見市蔵)
②象嵌南蛮人文鏡(津久見市蔵)
③メルカトル「アジア図」(津久見市蔵)

行事予定

2010(平成22)年

【企画展／特別展】

2月17日(水)～5月26日(水)
企画展「世界人物図巻」の世界
[場所] 西南学院大学博物館1階廊下前、2階講堂

5月27日(木)～7月3日(土)
九州のキリスト教シリーズII
南蛮の鼓動—大分に残るキリシタン文化
[場所] 西南学院大学博物館1階特別展室、2階講堂

【講演会など】

3月13日(土)14:00～16:00 大学院GP公開講座⑥テーマ「琉球」
宮崎克則氏(九州大学総合研究博物館准教授)
「琉球における宗門改め」
田畑春香氏(九州大学大学院比較社会文化学府博士前期課程)
「琉球王家の葬儀と墓」
大部志保氏(本学大学院国際文化研究科博士後期課程研究生)
「琉球におけるキリシタン改めの記憶—名護市に残るキリシタン祭りを中心として—」
[場所] 西南学院大学博物館2階講堂

3月18日(木)13:00～14:30
神学部卒業礼拝
[場所] 西南学院大学博物館2階講堂

3月21日(日)13:00～17:00
「MI・らん・NE」明日に輝け未来に翼ひろげるコンサート
[場所] 西南学院大学博物館2階講堂

3月22日(月)10:00～17:00
「MI・らん・NE」明日に輝け未来に翼ひろげるコンサートvol.3
[場所] 西南学院大学博物館2階講堂

4月22日(木)12:30～14:30
西南学院事務局新任職員研修
[場所] 博物館事務室

4月23日(金)・24日(土)・25日(日)
コダーイ・春の音楽セミナーin福岡 第3回 近・現代のハンガリー音楽
24日(土)10:30～19:00
25日(日)10:00～19:00
[場所] 西南学院大学博物館2階講堂



大学博物館2階講堂
各種講演会、コンサートなどで利用されています。(要申請)

西南学院大学博物館 SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM

〒814-8511 福岡市早良区西新3丁目13番1号
TEL.092-823-4785 FAX.092-823-4786 / 博物館事務室
URL <http://www.seinan-gu.ac.jp/museum/>

●開館時間のご案内
開館時間 / 10:00～18:00(入館は17:30まで)
休館日 / 毎週日曜日、夏期休暇[8/10～8/16]
キリスト降誕祭[12/25]、年末・年始[12/28-1/5]
入館料 / 無料

来館者掲示板

知らない言葉や植物を見ることができ大変勉強になりました。ありがとうございました。(2009/12/16 女性 40代)

—聖書に登場する植物は珍しいものたくさんありますよね。聖書植物園でも様々な植物を見ることができますので、またいらしてください。

ユダヤ教独特の祭祀に使う道具が珍しかった。あまり知るチャンスがないユダヤ教について知ることができて良かったです。(2009/12/21 男性 60代)

—特別展へのご来館ありがとうございます。館内には、展示物にちなんだわかりやすいパンフレットも置いてあります。ぜひご覧になってみてください。

私はキリスト教信者ではありませんが、展示物をみるととても穏やかな気持ちになれました。また来たいです。(2010/01/09 女性 20歳)

—ありがとうございます。ご来館してくださる皆さんにとって、ほっとする空間であれたら光栄です。いつでもお待ちしております。

すごーくおもしろかったです。ろうそくをたてるやつがすごーく思いました。(2010/01/16 K・F 10代)

—大型ハスキヤのことですね。ハスカの祭り(宮清めの祭り)で使うろうソクたてです。みなさん実物の大きさにびっくりされていましたよ。

—2009年11月10日～2010年1月16日まで秋季特別展「ジュダイカ・コレクションII 祈りの継承～ユダヤの生活と儀礼～」を開催しておりました。そのため今回は、ユダヤ教の展示物についての驚きや感動の声をたくさんいただきました。ありがとうございます。ご来館者の皆さんから大切に鑑賞していただいたことを感謝しております。(博物館スタッフF・Kより)



アクセスマップ ACCESS MAP



福岡空港 → 西新駅下車……約17分
博多駅 → 西新駅下車……約12分
天神 → 西新駅下車……約8分
※地下鉄西新駅(3番出口)から徒歩5分
博多駅バスセンター → 修験館前……約35分
天神 → 修験館前……約20分
※修験館前バス停から徒歩5分
福岡空港(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学……約25分
博多駅(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学……約20分
天神(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学……約15分

News

西南学院大学博物館ニュース

Volume 02 2010.3

●西南学院大学



特集 イコン「キリストの降誕」

博物館紹介④ 西南学院大学博物館常設展示室 ～Part1 聖書とイスラエルの歴史～

企画展紹介 「世界人物図巻」の世界

次回特別展紹介 「九州のキリスト教シリーズII 南蛮の鼓動 大分に残るキリシタン文化」

所蔵品紹介 ～イコン「キリストの降誕」～

大学博物館紹介② 熊本大学五高記念館

大学周辺情報② 西南学院宣教師記念碑

西南学院大学博物館常設展示室 ～ Part1 聖書とイスラエルの歴史～

本学博物館入口から左に折れると、「展示室」（常設展示室）があります。展示室は、七つのコーナーに分かれており、西洋・東洋・日本のキリスト教史について取り上げています。今回は、常設展示室のなかから聖書とイスラエルの歴史のコーナーを中心にご紹介します。

常設展示室入口正面には映像コーナーがあります。ここでは「イスラエルにみる聖書の世界—旧約聖書編—」と「イスラエルにみる聖書の世界—新約聖書編—」を交互に上映しています。映像を通じて来館者にキリスト教をより理解してもらえるようにしています。

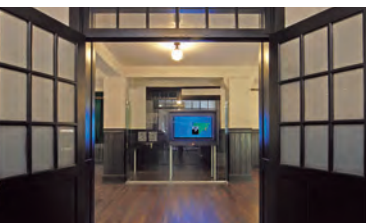
展示内の「聖書の民イスラエルの歴史」では、洪水物語の粘土板、またレンズマメやイナゴマメなどの聖書植物、陶製ランプを時代変遷にしたがって展示しています。そして「聖書の写

本」では、聖書が巻物の羊皮紙・パピルスに書き写されていたものから冊子本に変化したことを時系列的に紹介しています。

また、「魔鏡」のコーナーでは、ボタンを押すと魔鏡に光があたり、壁面に十字架の上のキリストが照射される仕組みになっています。「魔鏡」コーナーは博物館の階段下を利用したところにあり、とても情趣があります。雰囲気のある展示コーナーとなっており、大変人気があります。



＜魔鏡展示室＞



常設展示室入口(映像コーナー)



聖書の民、イスラエルの歴史コーナー



聖書の写本コーナー



聖書の写本コーナーと魔鏡展示室(右奥)

【大学博物館紹介②】

熊本大学五高記念館

熊本大学五高記念館は1993(平成5)年10月、旧制第五高等学校の一部が一般公開され、2000(平成12)年4月に全館公開されました。五高記念館は熊本大学の教育研究、地域連携の拠点として位置付けられ活動されています。

旧制第五高等学校の赤煉瓦の本館は1889(明治22)年に完成した洋風建築で、本館・化学実験場・表門は1969(昭和44)年に設計図を含めて国指定重要文化財となりました。

本館常設展示は、6つの展示室を兼ね備えています。ここでは旧制第五高等学校の開校からの

歴史や、教鞭をとられた著名な教授、卒業生などを紹介しています。嘉納治五郎、ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)、夏目漱石などの教授陣をはじめ、寺田寅彦、池田勇人、佐藤栄作などの卒業生に関する展示を行なっています。また、五高当時の教室を復元しており、当時の学生の学び舎を体感できるスペースがあります。

キャンパスの中央にある記念館は存在感はもとより、重厚感もあり、キャンパス全体の調和を保っています。旧制五高を象徴する建物は、熊本大学の長い歴史と文人たちの息吹を感じることができま



復元された五高の教室

開館時間 10:00～16:00(最終入館15:30)
入館料 無料
休館日 毎週火曜日、年末年始
3月～11月の祝日は開館。12月～2月の祝日は土日と重なった場合のみ開館。
熊本大学の行事の都合上、臨時に閉館または休館する場合があります。
連絡先 〒806-8555 熊本県熊本市黒髪2丁目40番1号
TEL.096-342-2050 FAX.096-342-2051
URL http://www.goko.kumamoto-u.ac.jp

所蔵品紹介

アイコン「キリストの降誕」

世界の状態をあらわす、洞窟の暗闇



アイコンとはギリシャ語の「エイコン」(英語発音ではアイコン)が変化したものであり、「像」や「イメージ」という意味にとらえられています。原則として板の上にテンペラ技法(卵テンペラなど)で描かれた絵画をいいます。大型のものになると、何枚もの板をつなぎ合わせて製作されます。

「キリストの降誕」は、真っ暗な洞窟のなかに、中央には生まれたばかりのキリストと聖母マリアを配し、左には東方三博士を描いています。東方三博士は黄金・乳香・没薬を贈り、キリストの生誕をお祝いました。キリストの近くには白いロバと



イエス・キリスト



東方三博士



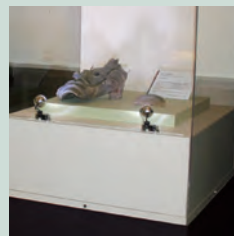
聖母マリア

茶のウシが描かれていますが、これは旧約聖書に「ウシは飼い主を知り、ロバは主人の飼い葉おけを知っている。しかし、イスラエルは知らず、わたしの民は見分けない」という言葉があるためとされます。

キリストは馬小屋で生をうけました。本資料の全体をあらわしている洞窟も馬小屋に見立てられていることはもちろん、その真っ暗な様態は、世界の状態を表現したものといえます。こうしたなかで生きる人々を導くためにキリストは生まれたということ象徴的に描いています。

学芸員の眼 — 解説パネル —

最近、博物館の解説パネルは以前と比べてスリム化してきています。パネルには基本的に資料名、作者、年代、素材、資料解説が記されます。従来の博物館では、ふんだんな情報量の解説パネルを作成し、来館者に説明してきましたが、近年では字数をできる限り制限し、簡潔明瞭にまとめる工夫をする館が増えてきています。それは情報量の多さで、来館者が疲れたり、途中から「ながし読み」するようになるからです。一般的な活字離れも背景にはありますが、大学博物館に限らず、公共機関の博物館をみても最近ではひと



資料解説パネル



章解説と資料解説パネル

つの資料に対して200字以内になっているところが多いようです。担当する学芸員からすれば、多くの情報を提供したい反面、こうしたジレンマをかかえています。情報量の減少への対策としてパネルとは別の解説を図録に載せたり、ギャラリートークをして来館者にわかりやすく説明します。パネル一枚にも博物館や学芸員の切なる思いが込められています。

博物館学芸員 安高啓明



博物館通信

2009年11月から2010年3月までの間、多くの博物館活動を行ないました。そのいくつかを紹介します。

2009(平成21)年11月25日(水)、駐日イスラエル大使ニシム・ベンシロット様ご一行が、西南学院大学博物館を訪問されました。開催していた秋季特別展「ユダヤ・コレクシオンII祈りの継承—ユダヤの生活と儀礼—」をご観覧されました。

2010(平成22)年1月22日(金)、本学博物館2階講堂において九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プログラム(P&P)事業「展示理論と実践—学芸員と展示業者の対話—」を開催しました。

西南学院大学大学院国際文化研究科による学内GPの公開講演会を共同開催しました。「キリスト教文化のアジアへの伝播」、「中国少数民族」、「観光人類学」をテーマとする総合研究で、計6回にわたる講演会では活発な議論が行なわれました。

本学博物館は2010(平成22)年3月1日付をもちまして福岡県教育委員会から博物館相当施設に指定されました。

[設置者の名称及び住所] 学校法人西南学院

福岡県福岡市早良区西新六丁目2番92号

[名称] 西南学院大学博物館(ドージャー記念館)

[所在地] 福岡県福岡市早良区西新三丁目13番1号



イスラエル大使ご観覧の様子



講演会の様子



指定を受けた大学博物館(ドージャー記念館)

スタッフの声

西南学院大学博物館では、学院創立者であるC.K.ドージャーゆかりの品、魔鏡、聖書写本、キリスト教の母胎であるユダヤ教関連の展示、そして日本や九州におけるキリスト教に関する展示を行っています。

また、当館は2004年に福岡市有形文化財に指定されました。ジョージアン・コロニアル・スタイルの建築様式、そして、大正時代から使用され続けたことにより窪んだ木造階段の段板や講堂に置かれた長椅子など、建物の歴史を感じていただければ幸いです。

みなさまのお越しをスタッフ一同お待ちしております。

臨時職員・本学大学院国際文化研究科博士前期課程 中松沙織



博物館の西側に建つ小さな碑のことをご存知ですか。これは、西南学院に奉職した宣教師の先生方の働きを称えるためにつくられた記念碑です。西南学院と西南学院同窓会の協力によって2008(平成20)年5月に設置されました。

西南学院は、1916(大正5)年、C・Kドージャー先生によって創設され、それから今日に至るまで、沢山の若者を世に送り出し、100年近くの歴史を重ねてきました。学院の発展には、ここに名前が刻まれた79名の先生方による、キリスト教精神に基づいた尽力が思われます。もともと、その精神は、ドージャー先生の遺訓「西南よ、キリストに忠実なれ」と共に、学院の中に今日も受け継がれています。

臨時職員・本学大学院国際文化研究科研究生 平川知佳

大学周辺情報② 博物館の小さな碑 西南学院宣教師記念碑

